

環境・安全・健康に対する取り組み

東京エレクトロンは、当社の継続的な成長と社会の持続的な発展のために、環境・安全・健康に対する取り組みを経営上の最重要課題の一つと位置づけています。当社が携わるあらゆる分野で環境負荷を低減すること、また、当社やお客さまの施設内における安全を確実にすることに積極的に取り組んでいます。

環境への取り組み

東京エレクトロングループは、Technology for Eco Lifeのスローガンのもと、最先端の技術とサービスで、環境問題の解決を目指します。あらゆる事業活動において、環境負荷低減と地球環境保全を目指し、さらに生物多様性にも配慮した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

■ 環境ビジョンに基づく環境目標

環境ビジョンのもと、「製品貢献」「調達・物流」「事業所」「環境マネジメント」の4分野における環境目標を2012年3月期に設定しています。「製品貢献」では各ビジネスユニット代表機種でのエネルギー使用量50%低減および製品の環境コンプライアンス、「調達・物流」ではグリーン調達およびモーダルシフトの推進、「事業所」では省エネルギー化の推進、水使用量削減および廃棄物リサイクル、「環境マネジメ

ント」では主に製造系の事業所におけるISO 14001の取得、環境教育の実施および生物多様性に関する活動開始などを掲げ、環境活動を推進しています。



製品の環境負荷低減への取り組みの一例

プラズマエッチング装置

電力使用量の多いプラズマ生成用高周波電源と温度調整機器（チラー）の省エネルギー化を実施してウェーハ処理1枚あたりの消費エネルギーを50%削減



プラズマエッチング装置
Tactras™ Vigus™

■ 2014年3月期の環境目標の成果

環境目標に対する活動の成果は以下のとおりです。

I. 製品貢献

- 製品の環境負荷低減
目標である「各ビジネスユニット代表機種で2015年3月期のエネルギー使用量を2008年3月期比で50%低減」に対して、2014年3月期に前倒しで達成することができました。
- 製品の環境コンプライアンス
有害物質*削減活動とともに、継続的に適合・対応中です。

* 日本：化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律、労働安全衛生法、毒物及び劇物取締法
 海外：RoHS、REACHなどで規制されている物質

II. 事業所

- 省エネルギー化の推進
「各地区の原単位1%削減」という目標に対し、目標を設定した国内・海外14事業所のうち9事業所で目標を達成しました。なお、2014年3月期の当社グループのGHGプロトコルで定めるScope1、2のCO₂排出量は157,360トンでした。
- 水使用量の削減
「各地区の原単位を維持」という目標に対し、国内・海外で設定した18目標のうち11目標を達成しました。



製品含有化学物質の新要領導入説明会 生態系観察会

- 廃棄物リサイクル
国内の目標リサイクル率97%以上を達成しました。海外で目標を設定した地区も達成しました。

III. その他の活動

グリーン調達ガイドラインに基づく取引先さまの環境活動調査、環境Web教育の海外地区での実施、前期に制定した生物多様性に関するガイドラインに基づく活動などを実施しました。

2015年3月期も、グローバルに継続的な改善活動を推進していきます。

安全・健康への取り組み

当社グループでは、社員だけでなく、お客さま、取引先さまの安全と健康を最優先に考え、さまざまな安全活動を行っています。社員や協力会社の方への継続的な安全教育、安全性を重視した装置設計や製造工程における環境への配慮など、企業活動のあらゆる側面で“安全・健康”を推進しています。

2014年3月期、人身事故発生件数は前年度と比較*して20%減少しました。また、重度のケガや死亡につながるような事故の撲滅を重点目標に掲げて活動を展開した結果、これらの事故については前年度と比較して、40%減少させることができました。事故の撲滅を目指し、装置搬入エリアの事前安全確認、作業現場におけるKY（危険予知）活動、安全巡視などの現場活動を実施するとともに、実際に発生した事故を題材としたケーススタディも行っていきます。また、ヒューマンエラー事故に関しても原因分析・対策など、再発防止活動に向けたさまざまな活動を継続して行っています。

当社は、これまで積み重ねてきた地道な安全活動により築き上げたワールドクラスの安全体制を、これからも維持強化すべく継続して努力を重ねてまいります。

* 昨年度同条件（2013年3月期に買収した4社で発生した事故および当社グループで発生した交通事故を除く）で事故をカウントした場合

より詳しい活動内容については、「東京エレクトロン 環境・社会報告書2014」（2014年7月発行予定）をご覧ください。



環境・社会報告書2014

| | テーマ（目標） | 2014年3月期の活動状況 |
|----------|----------------------------|---|
| 製品貢献 | 製品の環境負荷低減 | 各ビジネスユニット代表機種で50%エネルギー低減を2014年3月期に前倒しで達成 |
| | 製品の中国RoHS適合 | 製品の中国RoHS適合に関し、海外生産拠点へ活動を展開 |
| | 製品の自主的欧州RoHS 対応推進 | 各ビジネスユニット代表機種で欧州RoHS適合部品率98.5%以上を継続 |
| | 各国製品環境コンプライアンス | 欧州REACH、各国GHS、電池規制に継続的に対応。海外での体制を強化 |
| 調達・物流 | グリーン調達の推進 | 主要取引先さま約300社に対して環境活動のアンケートを実施し、状況を把握 |
| | 物流における環境負荷低減 | モーダルシフトの推進、モニタリングの継続 |
| 事業所 | 省エネルギー化の推進（前期比1%削減） | 目標を設定した国内・海外14事業所のうち9事業所で達成 |
| | 廃棄物リサイクル（国内リサイクル率97%以上を維持） | 国内リサイクル率98%、海外で目標を設定した地区も目標を達成 |
| | 水使用量の削減（2012年3月期レベルを維持） | 国内・海外で設定した18目標のうち11目標で達成 |
| 環境マネジメント | 環境マネジメントシステム | 当社グループ製造系事業所でのISO 14001認証を継続 |
| | 環境教育 | 環境教育を海外で実施、2013年3月期の国内受講者を含め合計約10,000人が受講 |
| | 環境コミュニケーション | 環境・社会報告書を継続的に発行 |
| | 生物多様性の保全 | 活動ガイドラインに基づき、国内各事業所で生態観察会を複数回実施 |